

広間には、2つの高さによって多様な居場所ができる。
6人集まっても、それぞれ自分の居場所を確保でき、
みんなの視線が少しずれて変わる。
速度な距離感と、速度な一体感につつまれて、いつまでも...

中野のコートハウス



site analysis



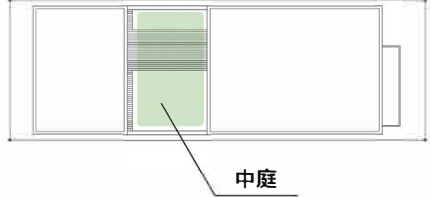
中野の住宅地に4人家族のための家の建てる。
この敷地は中野駅から徒歩10分程の場所にある。
周囲は戸建て住宅が密集し、北側道路以外の3方向がふさがれている。

所在地:東京部中野区
主要用途:専用住宅
家族構成:夫婦+子供2人
敷地面積:122.2㎡
建ぺい率(許容):80%
容積率(許容):240%

地域地区:近隣商業地域・第三種高度地区・防火地域
構造:RC壁式構造
規模:地上2階

court house concept 1

敷地の条件より、東・南・西の各面の窓は眺望や採光は期待できず、換気の役目の小さな窓しか考えられない。
そこで、今回は内部に中庭を持つコートハウスとして設計をする。この中庭部分は採光、眺望はもちろんのこと、南北のボリュームをわけ、またつなげる役割も担う。



中庭

1Fサンルームから中庭を見る



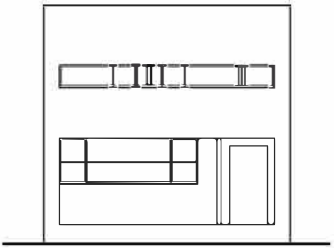
△「家事の合間にちょっと休憩。
あぁ、庭の緑もずいぶん良い感じになってきたなぁ。
週末は気分を上げてサンルームでランチを食べようかな?」

two different spaces concept 2



南北に細長い敷地の中心に中庭を設けると、庭を基点に北側と南側に居場所が分かれる。これを利用して、それぞれを2つのシーンで使い分ける。
中庭を通してさんと光が差し込む北側を、普段家族が集ったり友人を招いたりする「にぎやかな空間」として。
直射光は入らないが静かな明るさを持つ南側を、日常から一歩距離を置き、落ち着いて過ごせる離れのような「なごみの空間」にしようと考えた。

facade design concept 3



北側立面図 1:200

前面道路以外に開放されていないこの敷地では、北側のファサードが唯一「まち」と接することができる部分である。
1階部分を約2mセットバックさせ、道路と建物の間に余白を持たせることで境界があいまいになり、道路反対側の公園につづくような、「やさしい空間」を作り出す。

南側 なごみの空間

2F主寝室から見た中庭



△「日曜日の朝はママもちょっと寝坊させてもらかな...。」
「ここで寝転がっていると、パリのホテルを思い出すな...。」

2F主寝室



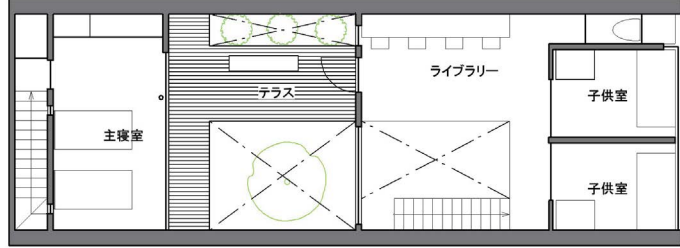
△「この寝室は階段は専用だし、正面は庭だしホテルみたい。毎日の疲れが癒されるわぁ」

1Fリビングから中庭を見る

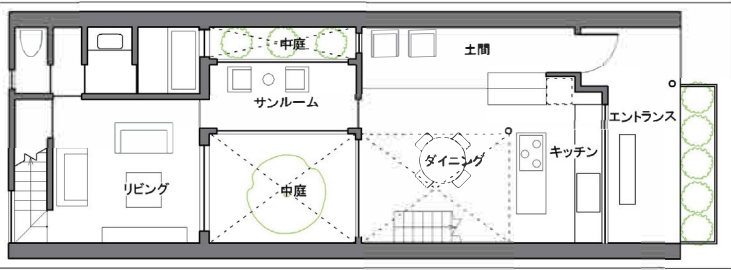


△「今日は休みだから、リビング側にきてゆっくり本でも読もう...。」

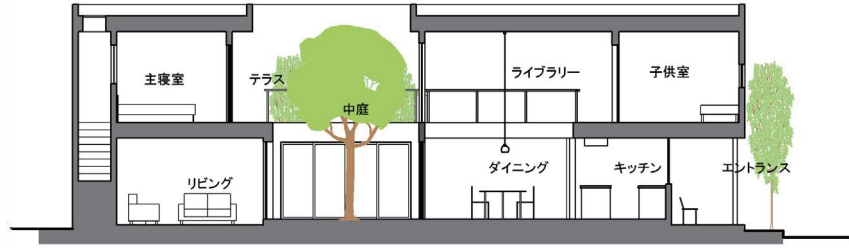
image photos



2F平面図



1F平面図 1:200



断面図 1:200

北側 にぎやかな空間

1F土間からリビングを見る



△「おじゃまします。うわぁ、広々として明るいダイニング!」
「子供達は勝手に遊ばせておいて、あっちでおしゃべりしましょう!」

1Fキッチンよりダイニング、中庭を見る



△「さぁ、今日は何を作ろうかな?」
そう言えば2人は...あ、いたいた。今日の夕飯はカレーライスよ!」

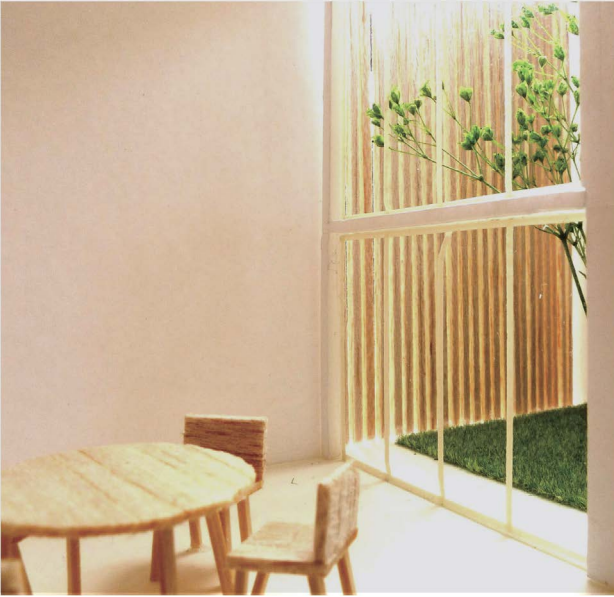
2F子供室の隣に設けたライブラリー



△「お兄ちゃん、ここ教えて!」
「え?しょうがないなぁ...あれ、ママが下で料理はじめてみたい。いいにおいがする!」

「あぁ、今日もいい天気みたい。早く着替えて下におりよう。朝ご飯なんだろうな?」

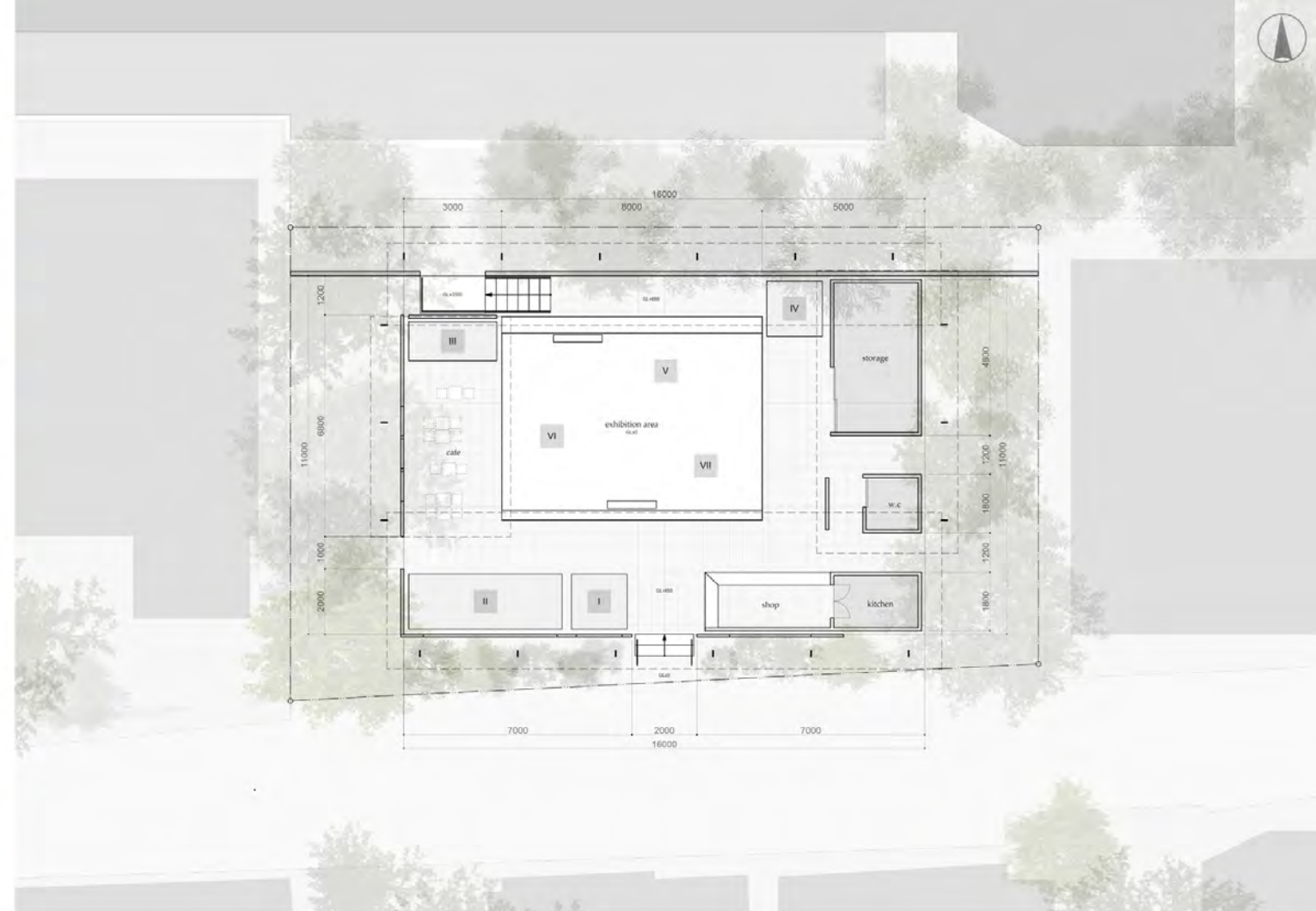
1Fダイニングより中庭を見る



△「ママ、ご飯まだあ?」
「もうすぐできるから! ねえ、外の天気はどう?雨ふりそう?」
「うーん、ちょっと曇が多い感じだねえ。あれえ、外の木、ずいぶん繁ってきたね。週末は外でバーベキューにする?」

2F子供室からライブラリーをみる





Section S=1/100

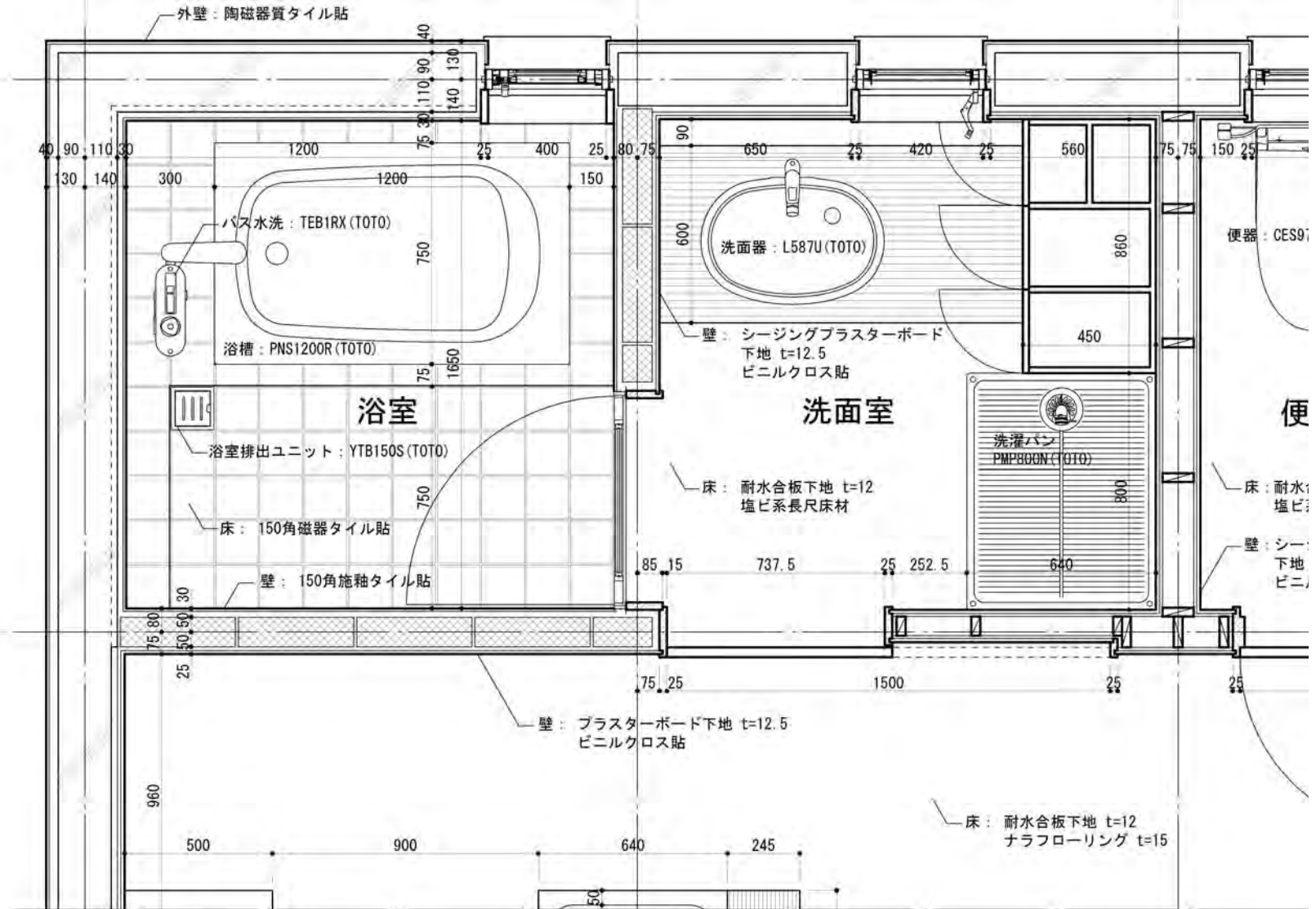
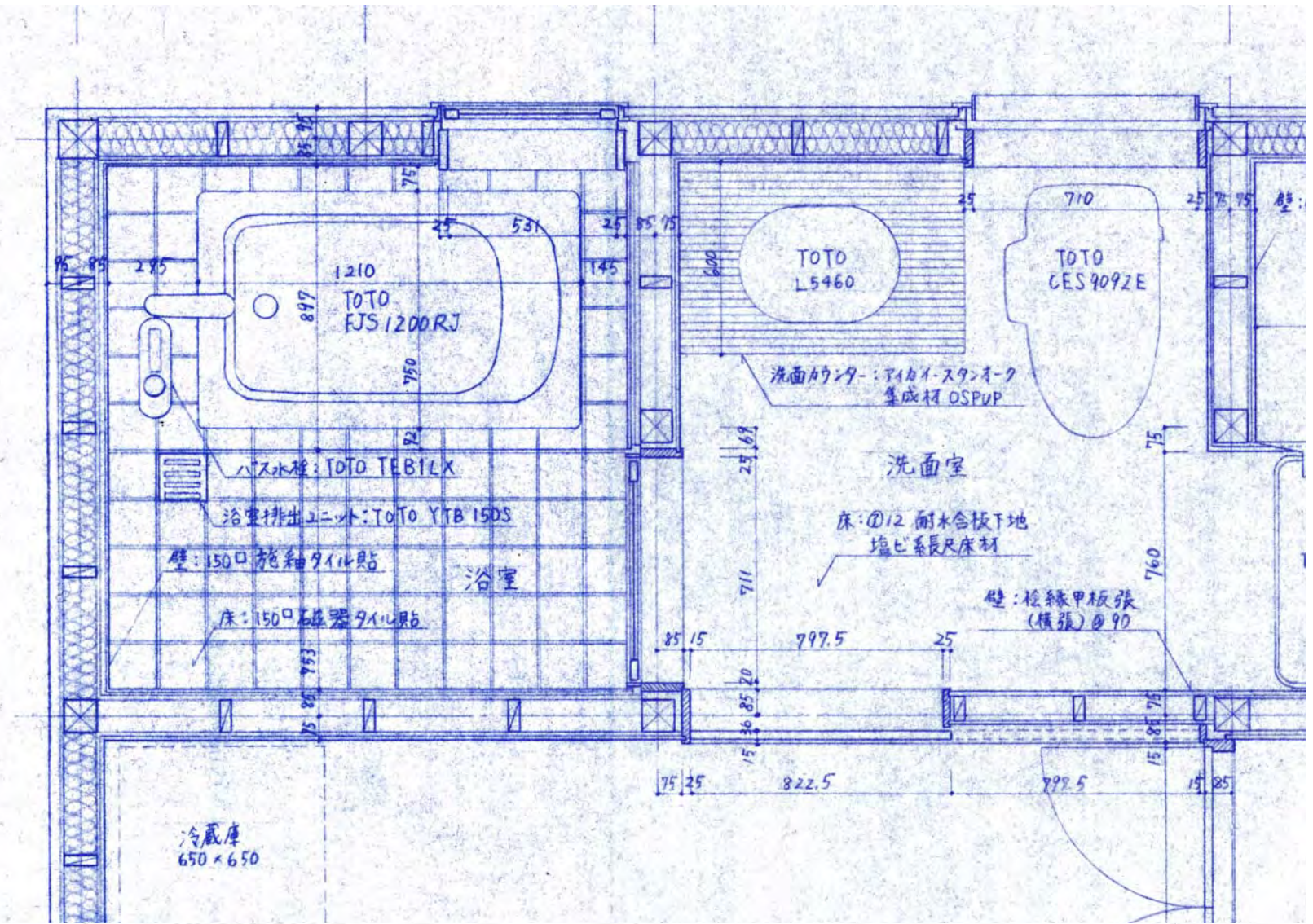
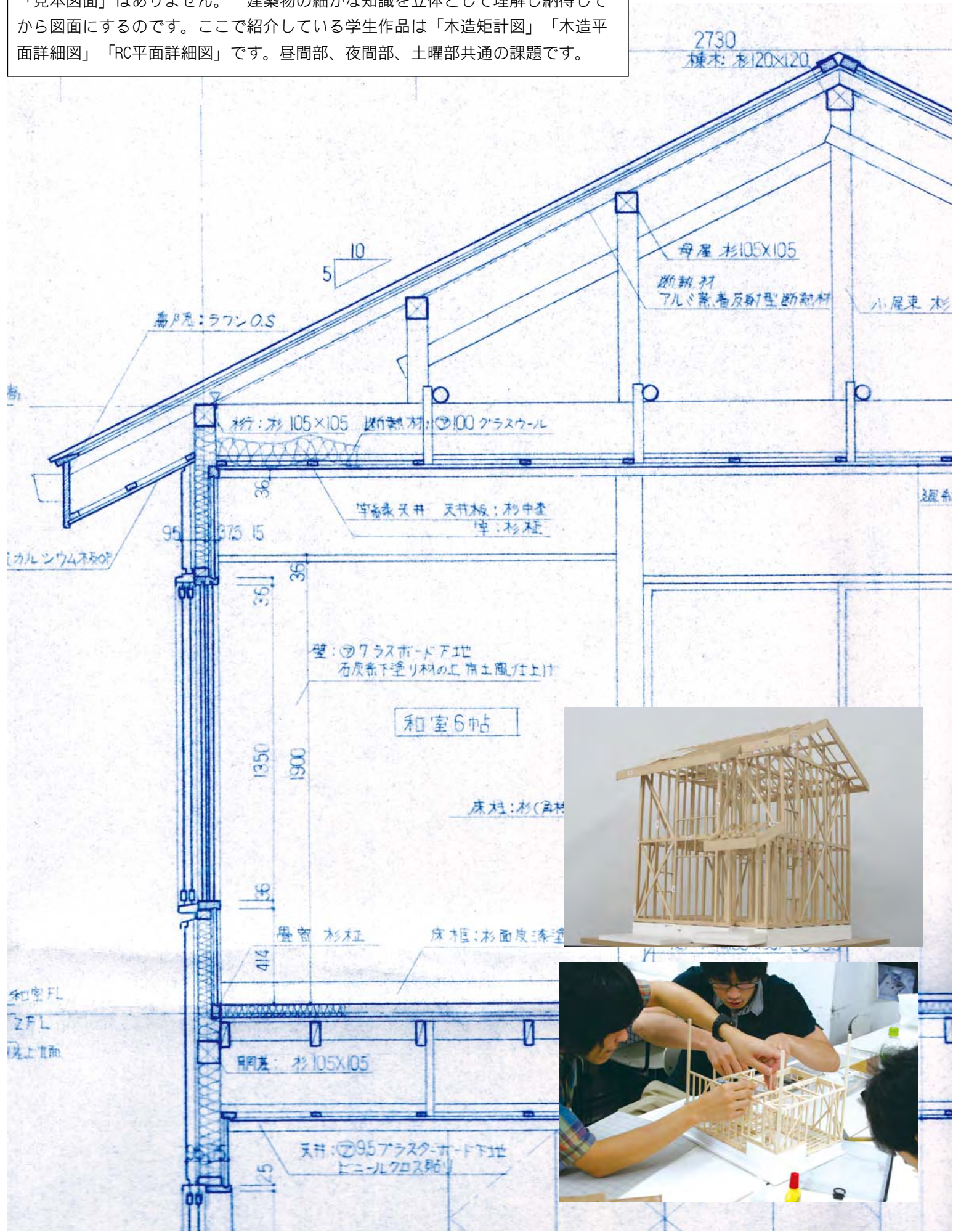
This architectural rendering shows the interior of the Theater der Gegenwart. The space is characterized by its minimalist design, featuring a large, open hall with a light-colored floor. A prominent feature is a raised platform area with a dark, rectangular opening, possibly a stage or a seating area. The walls are a warm, orange-brown color, and the ceiling is white. The rendering is framed by a brick wall on the right and a glass wall on the left, suggesting a view from outside. The overall atmosphere is modern and minimalist.

An architectural rendering of the exterior of the new building. The structure is constructed from red brick and features large, light-colored glass doors and windows. The building is situated on a paved plaza area, with a low concrete wall in the foreground. Several stylized human figures are placed around the building to provide a sense of scale. The background is filled with lush green trees, and a semi-transparent grey rectangular area is visible at the top of the image.

north entrance・緑の小道を抜けた先、彫刻や建物に出会う。

技術課題より 平面詳細図」と「矩計図」

デザインファームではまず学習用木造モデルの軸組模型をつくり、立体を感覚的に理解しながら仕組みと役割を学びます。その上で様々な図面が出題されますが、「見本図面」はありません。 建築物の細かな知識を立体として理解し納得してから図面にするのです。ここで紹介している学生作品は「木造矩計図」「木造平面詳細図」「RC平面詳細図」です。昼間部、夜間部、土曜部共通の課題です。



設計課題の進め方

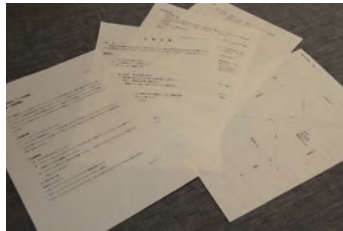
設計課題をどうやって進めていくのか、昼間部1年生の設計課題を例にあげて設計プロセスをご紹介します。

いきなり難しい図面を描くのかな？
きれいな模型を作るのかな？

いえいえ、
そんなことはありません。
わかることから
少しずつ進めていくのです。

デザインファームの設計課題のプロセスは、
設計のプロが行う設計プロセスに
とても近いやり方です。
だから、設計事務所の即戦力になるのです。

1. 課題が出題されます。



最初にA4サイズの課題プリントが数枚配られます。1つの課題は約6週間程度で仕上げていきます。課題内容は最初は取り組みやすいものから始まり、徐々に複雑なものへ。2年間かけてステップバイステップで変化していきます。

2. 敷地を見に行きます。



想定された敷地を見る事で、太陽の日がどのように差してくるのか、また周辺の様子を把握することができます。

3. 簡単な間取りを考えます。



どんな家族がどんな風に暮らしていくのか、あれこれ想像して、たくさんの間取りを考えます。これをエスキースと言います。1年の最初の課題では、エスキースの仕方も丁寧に順序を追って説明します。

4. 模型を作って考えます。

簡単な間取りができれば、
さっそく模型をつくります。

窓も扉も考えないで、簡単な模型をつくります。まず、ボリュームがわかる模型をつくり、それから、鉛筆でだいたいの窓の位置を決めて、カッターナイフで適当に開けていきます。定規や細かい寸法は必要ありません。おかしかったらテープでふさいでまた開けてみます。とにかく模型を使って、目で見て考えます。

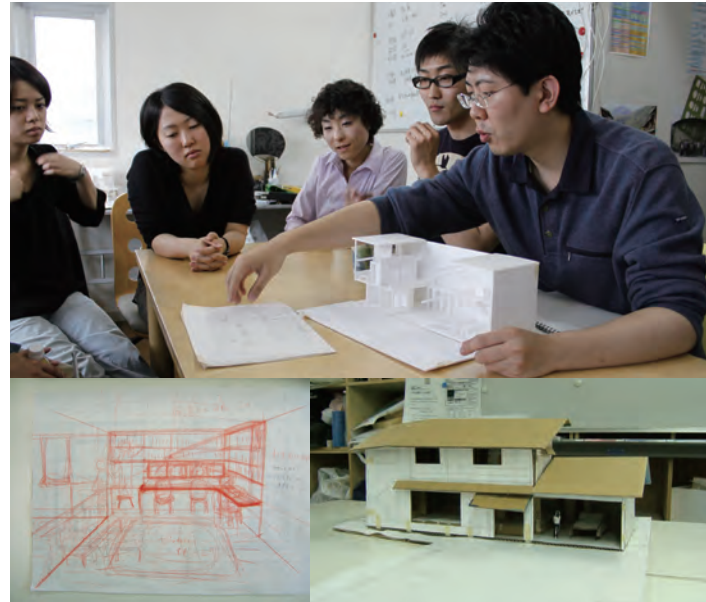
頭の中で考えていたイメージが形になると、「なんか違うぞ？」という違和感を覚えるかもしれません。けれど、その違和感を感じる事で、次には修正を加えることができます。それを繰り返す事で、徐々に自分のイメージに近づけていくのです。

課題は発表されると、そこからはひとりひとりまったく違う計画になっていきます。だから、先生もひとりひとりとじっくり向き合って話を聞きます。できあがった模型と一緒に眺めることで、立体感覚のずれを修正し、意見を交わし、計画を進めていきます。



いい設計をするには、「模型で考え」、「人に自分の考えを説明する」を繰り返し、問題点を見つけ、修正を重ねることが大切！

5. 模型を使って自分の考えを説明します。



ある程度考えがまとまったところで、
クラスの仲間に自分の考えを話す、「中間発表」を行います。

検討模型をつかってこれまで考えてきたことを発表します。
けっしてきれいな模型ではありません。
電車のなかで描きためたスケッチを使って発表する人もいます。
まだ検討中の部分もあったりします。
そんな状態を先生や他の生徒さんと一緒に考え、意見を交換します。

発表する内容は、プランの説明だけにとどまりません。
どの場所で、どんなことが起こる家にしたいのか、じっくり説明します。

「家」という「モノ」の説明ではなく、家のなかでどんな「コト」が起こるのか、中間発表では「モノ」ではなく「コト」を大切に自分のプランを説明します。

内部の細かい所はパースなどの
スケッチを描いて検討します。
パースの授業があるので、絵の
苦手な人も安心です。

6. 模型のつくりこみ、そして製図

中間発表で考えたこと、思ったことを模型に反映させます。

自分の考えがぎゅっとつまった模型を見ながら、最後に図面を描き込みます。



7. 講評会

講評会では最終的な模型と図面をつかってみんなの前で発表します。
きれいな模型を作ることが目的ではありません。自分が考えたことをみんなに伝えることが大切です。
先生やクラスの仲間とともに一步一步進めていきます。
ここにたどりつくまでおよそ6週間。
おつかれさまでした！



8. 完成作品例

作った模型は写真に撮ってデータで保存しておきます。発表会のあとにさらに模型を作り込んで雰囲気を出す人もいます。
2年生になると、完成した作品をポートフォリオにまとめていきます。写真やポートフォリオは卒業後、就職活動をする際に、とても有効な資料となります。

